

羅 針 盤			方 策	点検・評価		達成度 総合	達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等			
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	1) コース制・選択科目等を導入している教育課程(カリキュラム)に生徒の80%以上が満足している。(A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満)	○農業の将来性や地域の課題、生徒の実態を踏まえ、教育力をさらに高められる教育課程になるよう評価検討する。	A (92.1%)	A (生96.8% 保94.6%)	A	【達成状況のまとめ】 ・各学科で実施している教育課程において、本校の特色を活かした学習活動が充実できた。 ・地域交流、地域貢献活動については、達成度が総合Aであったが、生徒アンケート等の評価が低いことがわかった。 ・学校が好きだと感じている生徒が多く、生徒も保護者も高い評価であることがわかった。しかし、生徒は83.9%と90%以下であったため、達成度の外部アンケート等・総合がBであった。  【次年度の課題】 ・教育課程については、より充実した学校生活が送れるように、各学科の教育課程を基盤とした教育活動を実施し、必要に応じて、教育課程や学習内容の見直し、改善をして次年度につなげたい。 ・地域交流、地域貢献活動については、今後も各学科の特色ある教育活動の一環として継続実施したい。また、生徒の学習効果について再検討し、精選することも視野に入れ、生徒の評価につなげたい。 ・特色ある学校づくりに貢献できるように、各学科の学習内容を生徒にとってさらなる充実を図りたい。また、授業のみならず、学校行事やHR活動、部活動なども関係する項目であるため、学校全体で連携しながら取り組む必要がある。	・教育課程(カリキュラム)について、職員や保護者以上に生徒の満足度が高いことは注目に値する。 ・学校が好きだと感じている生徒について学年別に見ると、2学年の結果が他学年の結果に対して低くなっている。これは2年生で低くなりやすいのか、この学年自体の特徴なのかかわからないが、注意しておくことも求められる。 ・公園花壇への花の苗植え付け、納涼祭への協力等、地域交流・地域貢献活動に積極的に取り組んでいると思う。 ・他校と異なる専門性をもっていることを学生たちも意識していて、その特性に誇りをもっていることがうかがわれる。学校に対して愛情を抱いていることが大切な要素である。
		2) 地域交流、地域貢献の活動に全学科で取り組んでいる。(A 全学科 B 4学科以上 C 3学科以上 D 2学科以上)	○各学科の特徴的な取り組みに沿って、地域との連携や協働を活発に行い、社会に開かれた学校づくりに取り組む。	A (97.3%)	(生65.0%)	A		
		3) 学校が好きだと感じている生徒が80%以上である。(A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満)	○生徒がより充実した学校生活を送れるよう指導内容や指導方法を工夫することで魅力ある学校づくりに積極的に取り組む。	A (100%)	B (生83.9% 保90.3%)	B		
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	4) 授業に生徒の80%以上が満足している。(A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満)	○基礎基本を習得させ、思考力・判断力・表現力を育成するための授業の工夫・改善を推進する。	A (97.4%)	A (生94.0% 保90.3%)	A	【達成状況のまとめ】 ・基礎学力の定着に向けて、基礎力診断テストを通して生徒の学力等を把握しながら、実態に応じた授業を展開した。 ・校内の授業改善のテーマ「自律した学習者の育成と学習評価の工夫・改善について」に基づいて、教員相互の授業参観等の研修を行った。 ・ICTを活用した授業の工夫や、観点別評価を意識した指導の工夫等を行い、指導と評価の一体化を図った。  【次年度の課題】 ・生徒の現在の学力について実態をしっかりと把握するうえで、基礎力診断テスト等の業者テストの結果をどのように指導に活かしていくかといった視点を持ち、生徒の基礎学力を向上させるための工夫や枠組みをこれまで以上に充実させていく。 ・アンケート結果から、学年によって学習に対する意欲に差があるという実態が明らかとなったので、このことに留意した指導を充実させていきたい。	・授業に満足している生徒が学年があがるにつれて高くなっていることは注目される。生徒が進路を見据えていく中で、希望の進路につながる専門的な授業が提供され高い満足度につながっていることが推測される。 ・意欲的に学習に取り組んでいるとする生徒について、学年別にみると、1年生の結果が低くなっている。1年生は2・3年生に比べて専門的な授業が少なく、相対的に興味をもちにくかったり、中には不本意入学のような形で、高校での学習のスタートに積極的に取り組めないといっすることもあるかもしれない。いずれにしても、1年生の学習意欲に課題があることに配慮した関わりが求められる。 ・学校側がICTによる工夫を進めている努力が認められる。一方で、保護者の求めるものとなかなか一致しないかもしれない。
		5) 授業改善のための研修会や教員相互の参観期間、研究授業等を年3回以上実施している。(A年3回 B年2回 C年1回 D年0回)	○授業改善推進委員会を中心に、授業公開や研究授業等を設定し教員相互に授業を見合うことで授業改善を推進する。	A (年3回)		A		
	3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	6) 意欲的に学習に取り組んでいると自己評価している生徒が80%以上である。(A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満)	○基礎力診断テスト等の結果を踏まえ、生徒の基礎学力についての実態を把握するとともに、生徒の基礎学力を向上させるための工夫や枠組みをこれまで以上に充実させる。	A (97.3%)	C (生81.8% 保72.9%)	B		
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	7) 生徒クラブ活動に生徒の80%以上が満足している。(A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満)	○農業クラブ活動の各種大会・競技会等への参加や生徒活動関係(文化祭、体育大会、部活動等)を充実させる。	A (97.4%)	B (生89.2% 保78.9%)	B	【達成状況のまとめ】 ・各種発表大会や生徒クラブ活動について、生徒が主体的に活動できる工夫を行い、行事の充実を図った。 ・服装髪型指導(身だしなみ指導)を定期的実施するとともに、日常の生徒指導の充実を図った。また式典等での身だしなみについて意識させる取り組みを行った。 ・法令遵守のいじめ対策委員会の実施やケース会議を行い、早期の実態把握、情報の共有化を図った。 ・二者面談の機会を充実させるとともに、ICTを活用した心の健康観察を毎週実施した。生徒が相談しやすい環境の構築、情報共有化を図った。 ・家庭との連携を密にし、個に応じた対応を図るためにスクールカウンセラー、教育相談係、外部機関等が連携して対応に当たった。  【次年度の課題】 ・生徒の意見を行事に反映させ、生徒クラブや各クラス代表生徒が主体的に行事に参加できるような工夫を構築していく。 ・交通安全の意識向上、交通ルールの遵守などきめ細やかな指導の充実を図るとともに自転車登校生徒にヘルメット着用の重要性をさらに周知徹底していく。 ・欠席率、遅刻率が昨年度より改善できた。さらに向上が図れるような対策をしたい。生徒の健康状態を把握し保護者との連携やスクールカウンセラー、教育相談係との連携を充実させるとともに、生徒一人ひとりの状況を理解し、適切な対策を構築していく。	・生徒クラブ活動について、2年生での満足度が若干低くなっている。この点も「2年生」という時期の問題なのか、この学年の特徴なのか経年的なデータに基づいて把握しつつ、対応していくことが求められる。 ・自ら進んであいさつできる生徒は、2年生で他の学年よりもあいさつができていく程度が高い。このような「成功」の要因が把握できるなら、その点をもとに、他の学年でも取り組みを進めたいかもしれない。 ・生徒への学校生活アンケートについて、組織的ないじめの未然防止、早期対応につながっていると評価できる。一方、その学校生活アンケートでとられているデータを基準に、より対応を進めることも考えられるので、必要に応じて検討いただきたい。 ・遅刻率が学年があがるにつれて高まる傾向も見られる。1年生のときの生活習慣を維持できるような働きかけも期待される。 ・欠席率は3学年が他の学年よりも高くなっていたことから、「学年があがったから欠席率が高まった」という状況とともに、「この学年自体が前後の学年に比べて欠席率が高い」という傾向を有しているとも考えられる。その点で、こうした生活習慣の崩れやすい学年にも注意を払いながら働きかけを進めることが期待される。
		8) 頭髪服装指導、登校時指導等を定期的に行っている。(A 定期的 B 月1回以上 C 学期2回 D 学期1回)	○学期の始業や終業時、式典等に向けて生徒の意識を喚起するとともに、身だしなみ点検を実施する。登下校時等に学校生活規則やマナー遵守の指導のため巡回する。	A (83.7%)	(生98.8%)	A		
		9) 自ら進んで挨拶できる生徒が80%以上である。(A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満)	○登下校時の挨拶運動や学校内での挨拶の励行を図る。	B (86.8%)	A (生90.9% 保89.4%)	B		
	5 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていますか。	10) 生徒への学校生活アンケートを3回実施し、組織的ないじめの未然防止、早期対応に努めている。(A 年3回以上 B 年2回 C 年1回 D 年0回)	○生徒への学校生活アンケートを実施し、いじめ対策委員会を中心とした組織的な対応、学年会議や係会議における情報の共有化を図る。	A (3回以上)		A		
		11) 遅刻率は1.2%(7.0人/日)以下である。(A 0.8%以下 B 1.2%以下 C 2.4%以下 D 2.4%以上)	○遅刻カードを利用し、保護者との連携や二者・三者面談を活用した個に応じた遅刻指導を実施する。	B (遅刻率1.0%)	生徒の95.6%が遅刻や欠席をしないように体調管理を心がけていると回答	B		
		12) 欠席率は2.5%(14.6人/日)以下である。(A 2.0%以下 B 2.5%以下 C 3.0%以下 D 3.0%以上)	○健康管理の意識を育成するとともに、個に応じた教育相談的な対応を図り、保護者や養護教諭、スクールカウンセラーとの連携を充実させる。	B (欠席率2.3%)		B		
6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	13) 学校で良好な人間関係を築いている生徒が80%以上である。(A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満)	○二者面談による聞き取りや生徒指導、教育相談の充実を図るとともに、保護者との連携を図る。	A (94.8%)	A (生95.7% 保91.9%)	A			
	7 計画的な指導を行っていますか。	14) 学校から提供される進路情報が役立つと評価する生徒が80%以上である。(A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満)	○定期的に進路情報を提供し、計画的な進路指導を行う。進路指導室と資料提示を充実させ進路選択の促進を図る。	A (97.3%)	B (生90.8% 保81.7%)	B	【達成状況のまとめ】 ・各学年ごとの進路ガイダンスに加えて、校外のものも定期的に紹介し、積極的に情報収集の機会を提供した。また学校行事として、教育実習生、3年生、卒業生の話を聞く機会を設け、進路意識の向上に努めた。 ・ベネッセ「基礎学力診断テスト」を実施、基礎学力向上を図った。デジタルドリルへの積極的な取り組みが見られ大きな効果を得た。「キャリアナビ」を活用したニュース検索や文章作成の取り組みに高い評価を受けた。  【次年度の課題】 ・進学の意義についての認識を共有し、必要な費用やそれを支援する様々な制度についても早めに伝達することで保護者と連携を図り、さらに進学に対して意欲的に向き合う体制を整えていく必要がある。 ・入社試験や入学試験に向かう準備の不足が課題である。特に基礎学力の不足は深刻である。進路指導部を中心にして、各教科や学年、学科の協力を得ながら、しっかりと方策を検討していく必要がある。	
		8 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	15) 進路実現に向けて積極的に取り組んでいる生徒が80%以上である。(A 90% B 80% C 70% D 70%未満)	○年2回の進路ガイダンスや進路相談会・インターンシップや進路対策講座等を実施し、情報を提供するとともに、生徒自身の適性理解につなげる。	B (88.5%)	C (生80.5% 保70.0%)		B
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	9 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	16) PTA総会、授業公開、販売会等の学校行事に1回以上参加している保護者が70%以上である。(A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満)	○メールやホームページを活用し、学校行事の周知の方法や開催方法を工夫することで、各行事への出席を促す。	A (100%)	A (保82.6%)	A	【達成状況のまとめ】 ・PTA総会や授業参観、販売会等、保護者や地域に学校行事について、多くの方々に参加していただくように、その開催方法や周知するタイミング等を工夫した。特にPTA総会においては、昨年度の2倍近い保護者の方々に参加していただくことができた。 ・ホームページやInstagramを通じて、日々の生徒の活動をよりタイムリーに発信することができた。  【次年度の課題】 ・PTA総会については、参加人数が伸び悩んでおり、その開催方法等が課題である。学校開放等の機会を増やし、イベント等についてメール配信やHPを通して周知を工夫し、積極的な参加を促す。 ・HPで発信する内容について、各学科や部活動の取組状況をこれまで以上に積極的に発信し、生徒の活動について理解を深めて魅力化を図る。	・Instagramなどは更新されたのが伝わりやすいので、まずは登録を促す取組を進めていることも活発かと思われる。 ・書面決済・デジタル決済に加えてWEBでの会議も活用して学校側の人的資材を他に回すことも必要。発信については生徒の力を発揮してもらい形も望まれる。
		17) ホームページ(WEBページ)やInstagramを公開し、毎月更新をしている。(A 月2回以上 B 月1回 C 年6回以上 D 年3回以上)	○生徒・保護者・地域へ適切な情報や迅速な発信ができるように、学科・分掌・学年等の係間で連携を密に行う。	A (月2回以上)	生徒の57.9%、保護者の58.6%が定期的に見ている。たまに見ていると回答	A		
VI 教育デジタル化に努めていますか。	10 ICTを活用した指導を行っていますか。	18) ICTを活用した授業に生徒の80%以上が満足している。(A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満)	○BYODを意識し、学習用端末の日常的な使用、授業での効果的な活用ができるように研修等を行い、学習活動の充実へつなげる。	A (92.1%)	B (生91.6% 保85.2%)	B	【達成状況のまとめ】 ・学習活動や学校行事において学習用端末を積極的に活用することができた。 ・欠席の連絡方法として、県内統一のスマート連絡帳へ切り替えることで、システムの移行・業務の改善を円滑に行えた。  【次年度の課題】 ・ICTを活用しやすい環境の整備を含め、様々な場面で学習用端末を活用していけるよう、推進していく。 ・次年度より欠席連絡等の方法が変更される予定である。保護者への周知をしっかりと行い、システムの移行を円滑に進めたい。	・ICTを活用した授業に満足している生徒の割合が3年生ではやや低くなっている。これは3年生で実習・実技的な教科が増えるといった事情を反映しているところもあるかもしれない。その点では、ICT活用が進んでいない授業でのICT導入の検討を進めるとともに、そもそもICT活用を進めやすい授業が否かを検討し、ICT活用を進めやすい授業について、その状況の評価を求めるといった取組も考えられる。 ・社会のあらゆる場面でデジタル化が進行している。生徒はタブレットを使いこなせる必要がある。ネットに発信するリスクについても意識してほしい。
		11) ICTを活用した業務改善を行っていますか。	19) 欠席遅刻の連絡をWEB連絡で行う(行おうとしている)保護者が80%以上である。(A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満)	○働き方改革の一環として、欠席や遅刻の連絡の方法が切り替わったことを周知し、WEBを使用した連絡や調査等を推進する。		A (保99.5%)		